

1. 日時 : 平成 22 年 6 月 3 日(木) 18 時半~20 時

2. 場所 : 荻手第 2 ビル 日本技術士会 会議室

3. 講演内容

(1) テーマ: 日本製造業の課題と競争力強化への提言

「21 世紀の Perfect Storm を乗り切る経営戦略」

(2) 講演者: 稲垣公夫氏 (ジェービル ジャパン取締役)

(3) 講演要旨

- ・ 21 世紀の事業環境はデジタル化 グローバル化 モジュール化という 3 つの Storm(嵐)が同時にお互いを後押しして従来にない厳しい状況を迎えている。
- ・ デジタル化によって、あらゆる情報コスト (処理、蓄積、伝達) が低下し、商品機能の高度化・コストの低下を促し、新興国への事業展開グローバル化を可能にした。
- ・ 事業のグローバル化には、市場にマッチした製品の供給が要求され、デジタル化された製品により容易になったのモジュール化設計と製造業界のモジュール化 (水平分業) が促進された。
- ・ 日本の製造業はこれらの嵐に対し、まともに「水泳」で突破しようとしたが、韓国・台湾企業等は嵐の浪に乗り「サーフィン」で乗り越えようとしている。
- ・ 日本の弱み
  - ① 戦略構築能力、大胆な戦略転換力不足
  - ② 自前主義に固執、選択と集中不徹底
  - ③ 国内・先進国市場優先、新興国市場出遅れ
  - ④ 人材の国際化の遅れ (語学力、論理的思考力、異文化理解)



(4) 感想

- ・ バブル崩壊後の「失われた 20 年」、日本の国力はあっという間に低下している。一人当たりの GDP [3 位(2000)→23 位(2008)], IMD 国際競争力 [1 位(1990)→22 位(2008)], 各種製品の国際シェア急落などのデータが示されている。
- ・ 今回の講演では、その要因を分かりやすく説明してくれた。3 つのキーワードは言葉を替えると①技術力 ②市場対応 ③経営戦略の面で、海外に負けていることを示している。ローカル重視の[ガラパゴス化]の見直しが求められている。
- ・ 「経営工学は、経営活動を工学的立場から統制・推進する管理技術体系」とあると言われていたが、経営現象は、経済・政治・文化・社会・人間などあらゆる要因が複雑に絡まって発生しているため、1 手法やコンセプトだけで対応できるものではない。状況を予測し、状況にマッチした複眼的な対応が求められる。そのことを再確認した講演であった。
- ・ 今回は、経営工学部会以外の会員の方を含め 50 人の参加を得た。部会間の交流も視野を広めるには有効であり、今後さらに進めていきたい。
- ・ 今回の講演は、収録され WEB 上で視聴できます(会員限定)。参加できなかった会員の方は、参考にしてほしい。(技術士会 HP→Pe-CPD→CPD 行事内容の HP 視聴) 以上

# 経営工学部会H22.6月例会

日時:6月3日(木)18:00~21:00

場所:葺手第二ビル 5階, 技術士会A・B

第1部 技術士会活動報告(18:00~) 経営工学部会推薦役員及び委員

第2部 ビジネス情報交換会(引き続き~18:30)

第52回定時総会(6/24)の委任状送付の依頼等

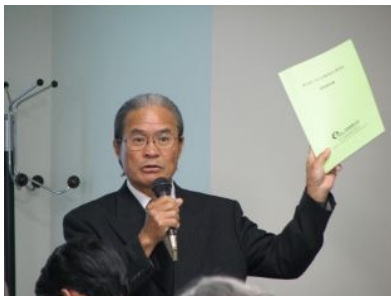


高宮 脩武部会長

会場の様子



中小企業交流実行委員会  
「調査報告書」発表者募集



二宮 孝夫  
中小企業交流実行委員会委員長

CPD・技術士業績・研究発表  
年次大会の紹介



山根 幹大会計幹事

研修委員会報告  
経営工学ビジョンJIMA、IE協会との  
合同討論会報告



堀内 孝男副部会長

8月例会のご案内



川口 賢良幹事

BCP(事業継続計画)研究会の紹介



前田 知久会員

第3部 ビジネス研究会(18:45~20:15)企画担当 堀内孝男  
テーマ:日本の製造業の課題と競争力強化への提言  
講演者:稲垣公夫氏(現 ジェービルジャパン 取締役)

会場の様子



稲垣公夫氏



質疑応答





第4部 ワンドリンク交流会 (20:15～21:00)



以上